

感染症研究の拠点として

大分大学グローバル感染症研究センター開設

大分大学では、これまでの感染症研究の成果を集結させ、新たな感染症研究の全国共同利用研究拠点として、「グローバル感染症研究センター」を令和3年10月1日に設置しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、地球規模での感染症対策が喫緊の課題となっています。新たな感染症（新興感染症）の脅威に立ち向かうためには、先進的な医学の発展だけではなく、感染症が人のみならず動物・環境とともにあるという「ワンヘルス」という新しい概念や、基本的な衛生概念と感染症に対する正確な知識の定着も必要となります。

また、既に先進国でコントロール可能となった再興感染症であっても、途上国では未だ制御が不十分であり、これらの国々から先進国への再侵入の可能性が常に存在しており、これも重要な課題の一つです。

このような新興・再興感染症の脅威に立ち向かうためには、我が国の感染症研究基盤の強化・充実が必須であり、国内に存在する（ローカルな）感染症だけではなく、グローバルな視点での感染症研究を行うことが必要であると考えています。



大分大学グローバル感染症研究センター

インバウンド/アウトバウンド医学研究部門

国境を越えた感染症の侵入とその防疫に資する視点から、渡航医学・ワクチン学・国際保健医療学などに関わる研究と医療を実践します

ワンヘルス研究部門

患者や動物、環境中の病原体やゲノム情報を探知し、その検査情報を臨床現場にフィードバックすることで、医学と獣医学の境界領域の診断につなげます

感染症病態研究部門

新興・再興感染症病原体の診断や病態基盤解明のための基礎的研究を遂行、新たなコンセプトによる感染症に対する創薬、治療、予防法の開拓を行います

ゲノムワイド感染症研究部門

新興・再興感染症病原体のゲノムワイドな情報を患者や臨床材料から収集し、そこから疾病多様性や遺伝学・人類進化学的知見までをも解析します

このセンターには、4つの部門を設置し、本学の国際的な感染症研究に従事する教員及び本学に蓄積された研究成果等を集結させたいうで、新たに細菌学・ウイルス学やゲノム解析を専門とする教員を迎え、先進的な感染症に関する研究を推進するとともに、医学部関連講座とも連携し、新薬の開発なども積極的に展開し、本学独自の特色として強化を図る計画です。特に、グローバルな視点からの海外渡航医療・医学や微生物ゲノム解析を研究領域としている点や、創薬までを含めた臨床と基礎研究を併せて遂行できる点が本センターの特色の1つであり、全国に先駆けたモデルケースとなり得ると考えています。

さらに、本センターは全国共同利用のセンターとして設置し、本センターが主催する共同研究公募（学外研究者と本センター研究者による共同研究の公募）を実施して、国内外の研究機関と連携強化を図ります。



OITA UNIVERSITY

【特色】 ウイルス学、細菌学、創薬、ゲノム解析、ワンヘルス



【連絡先】 大分大学グローバル感染症研究センター TEL097-586-5444